17. 空腸平滑筋肉腫の1例

竹田治代，花岡英紀，国府田桂子
国吉　孝，大久保裕司，岸　幹夫
関　秀一　（横浜労災）

空腸平滑筋肉腫の一例を経験した。年齢，性，反復する大量下血と著明な貧血など，小腸平滑筋肉腫の一般的な病像に一致する点が多かったが，原因不明のまま経過し，腹部エコー，CTで小腸病変が疑われ，小腸造影，腹部血管造影にて空腸病変と診断された。腹部エコー下吸引細胞診施行後，平滑筋肉腫と診断され，手術に至った。出血源不明な消化管出血の場合，小腸検索を積極的に行う必要があると考えさせられた一例であった。

18. 自然経過を観察しえた腸結核の1例

鈴木浩太郎，増田真一，伊藤文憲
（船橋中央）
金子良一，笠貫順二
（同・健康管理センター）
大久保春男　（同・病理）

症例は78歳女性，主訴は下腹部痛。平成5年下血で発症，注腸X線で回盲部の変形を認め，内視鏡にて横行結腸にびらんを認めるも未治療で経過観察となる。2年後下腹部痛出現，内視鏡にて横行結腸の著明な狭窄と輪状びらんを認め，組織培養で結核菌を同定した。同時期より結核性肺病変も認められたが，抗結核剤投与により腸病変，肺病変ともに軽快した。

19. 血液疾患を基礎として発症した若年者心筋梗塞の1例

古瀬陽子，黒田央文，中谷次郎
酒井芳昭，宮崎義也，石橋　巌
角田興一（救急医療センター）
平井　昭，青墳信之
（千葉市立）

25才，男性。ホルン吹奏中，胸部不快出現し来院。ECGにより前壁心筋梗塞を診断。tPA製剤点滴使用。同時に全身けいれん，意識消失あり，脳CT異常なく，脳・心血管撮影行い，矢状静脈洞血栓・左冠動脈血栓，左室前壁運動障害を見た。心不全と意識障害は，IABPおよび諸種強心薬にて軽快した。入院時，血小板数著増あり，後に，原病は慢性骨髄性白血病と診断された。当症例を若年心筋梗症例の検討を加え報告する。

20. direct PTCA後の急性冠閉塞に対し，Bail out stentを施行した急性心筋梗塞の1例

中尾圭太郎，九鬼伸夫，森尾比呂志
長谷川　修，松尾　哲，藤森義治
尾世川正明，松岡祐之
（成田赤十字）

direct PTCA後の急性冠閉塞に対しBail out stentを施行した急性心筋梗塞の1例を経験した。direct PTCA後の冠動脈造影では血流は良好だったがSTの改善は不十分だった。一方，ステント留置後には血流の改善とともにSTは基線に復した。心筋虚血の改善を評価する上で，通常の冠動脈造影のみでは不十分であり，血管内視鏡等を用いた，より詳細な病変の観察が必要であると考えられた。

21. 最近2年間の当院の造血器悪性腫瘍治療成績

木暮勝広，柳沢孝夫，松岡祐之
（成田赤十字）

当院で1994年4月1日から1995年9月30日迄に入院加療を受けた造血器悪性腫瘍患者77人について検討した。疾患には特に，地域的な特殊性はみられないと考えられるが，症例は多彩であった。これらの症例について患者背景と疾患別の治療方針，およびそれに基づく治療成績を報告する。また，地域での役割についても考える。

22. 難治性乳癌に対するMMCとVLB併用療法

脇田　久，伊藤国明，五十嵐忠彦
関根郁夫，藤井博文，大津智子
佐々木康綱
（国立がんセンター東）

標準的併用化学療法が無効となりmitomycin C（MMC）とvinblastine（VLB）の併用療法を施行した進行・再発乳癌21例について安全性および臨床効果について検討した。腫瘍縮小効果は21例中PRは3例であったが，12例で症状緩和効果が認められた。主な副作用は血液毒性であり白血球減少に伴う発熱がみられたがいずれも可逆性であった。本療法は安全性が高く，症状緩和効果が期待でき難治性乳癌に対し考慮すべき治療法と考えられる。